

編集後記

母国語資料がプリント主流である日本の大学図書館にとって、プリントコレクションへの対処は、洋雑誌電子ジャーナルの価格高騰問題と並ぶ最も大きな課題の一つである。今回、本学の保存書庫である白楽サテライト・ライブラリーの閉鎖に伴う新書庫への資料の大規模移転を契機に、その移転事業の記録に加えて、各キャンパスのプリントコレクションに関する現状報告を中心に特集を組んだ。企図したのは、本学のプリントコレクションの「今」を切り取ることを念頭に置きながら、あらためて、プリントでなければカバーできないこと、プリントだからこそできることを認識し、プリントコレクションに向き合う姿勢を再確認できればということである。信濃町、湘南藤沢の現状、三田の貴重書活用授業など、教育・研究現場での需要に則したプリントコレクションのあり方に関する報告記事は、まさに特集の狙いにマッチしたものと言えよう。

プリントコレクションの諸問題への対処においては「図書館協力」こそが重要だと考える。日本の大学図書館においては、協会やコンソーシアムといった形での図書館協力では一定の成果が出せているものの、草の根レベルの図書館協力は未発達であると言わざるを得ない。問題解決を一步進めるには、既に確立しているILLのようなしくみに加えて、本号の松本執筆の記事でも取り上げたシェアード・プリントの例のように、個々の図書館同士での協力活動が不可欠である。協力に当たって相応の負担が伴うと、どうしても「できない理由」を積み上げてしまいがちである。それでも目指す目標を共有し利害の一致点を見出しながら一步を踏み出す、共同でプリントコレクションの課題を解決していくためにはそういう覚悟が必要だろう。国内でもシェアード・プリントを意識した図書館連携が進行中である。そういった取り組みからの具体的な成果報告に期待したい。

本号の編集作業の途中で編集長の任をバトンタッチすることになった。このMediaNetを本学の図書館活動を発信するプラットフォームの一つとして今後も大事にしていければと願っている。

(関 秀行)

誌名変遷

八角塔 : 1号 (昭42 (1967). 7) - 6号 (昭45 (1970). 3)
KULIC (ISSN 0913-0705) : 1号 (昭45 (1970). 10) - 26号 (1992. 11)
MediaNet (ISSN 0919-8474) : No. 1 (1993. 11) -
